

# 明日へ向かって駆ける

## 農業法人の経営者は語る

### (株)八百丹 代表取締役

## 三崎 要さん

「目指すのは農家レストラン。自分で種をまいて栽培し、収穫し調理して、お客さまに提供するところまでやりたい」と話すのは福知山市三和町の「(株)八百丹」代表取締役の三崎要さん(46)。

三崎さんは、同町で1999年から取り組む新規就農者の受け入れを府から紹介され、同町に移った。大学を卒業後、造園会社に就職したが仕事が合わず退職し、アルバイトをしているときに、以前から興味があった農業に挑戦してみようと思ったのがきっかけ。アルバイト先で一緒だった妻と共に移り住んだ。やりがいもあり、3、4年目でやっていく手応えを得て今に至る。現在、京みず菜、ホウレンソウ、小松菜などをハウスで、紫ずきんを露地で栽培している。

2018年1月には、人の循環を生み周囲の信頼を得るために法人化した。

# 夢は農家レストラン



▶小松菜・京みず菜を栽培するハウスで思いを語る三崎さん

た。10年前から研修生を受け入れ、現在5人が巣立ち、6人目も巣立つ予定。「毎年受け入れる研修生は新鮮な空気をに入れてくれて、地域にも喜ばれ、農園が活気づき、周りも刺激を受けて頑張れる。法人化してさらに人の循環が生まれ、変わっていく可能性が生まれた」と、三崎さんは話す。

しかし、三崎さんは7年前に脳梗塞

を患い半年間入院し、今もリハビリをしながら会社を支える。「病気になったことが契機で開き直った。つぶすか伸ばすかの選択を迫られる中、伸ばすことを選択し今がある。その時に規模拡大のために農業機械の投資を決めた。死線をくぐり抜けたからこそ今日がある。その中でも、農園をまとめ、わがままを聞いてくれる妻には、大変

感謝している」と妻への愛情も忘れな

い。

今後は、冬野菜にも力を入れようと、20〜30坪の畑に、ダイコン、ハクサイ、ロマネスコ(カリフラワーの一種)など葉物を中心に、ブルーベリー、栗などの果樹もできないか検討する。

また「新規就農は起承転結。起で10年間頑張る、承でやりたいことが見つかり、それに向かって努力し展開して、最後結果を出す。社員にも夢を持ち、それを実現できる会社をつくっていきたい」と思いを語る。

「今後は新たにメインになる農産物を探し、八百丹のブランド化を考えている。新規就農者として巣立つ仲間と一緒にブランド価値を高めていきたい。法人化して間もないが、強い会社にしていきたい」と三崎さんは将来の展望を話す。

■法人所在地 福知山市三和町梅原1-179番地。(電)0773-5583653。

■法人概要 2018年1月設立。役員2人、従業員4人。経営面積 ハウス24棟54坪、紫ずきん(露地)1畝、冬野菜20〜30坪。農業機械 トラクタ12台、軽トラ3台、管理機3台。施設 堆肥置き場2カ所、集出荷場160平方メートル(2018年度新築)。